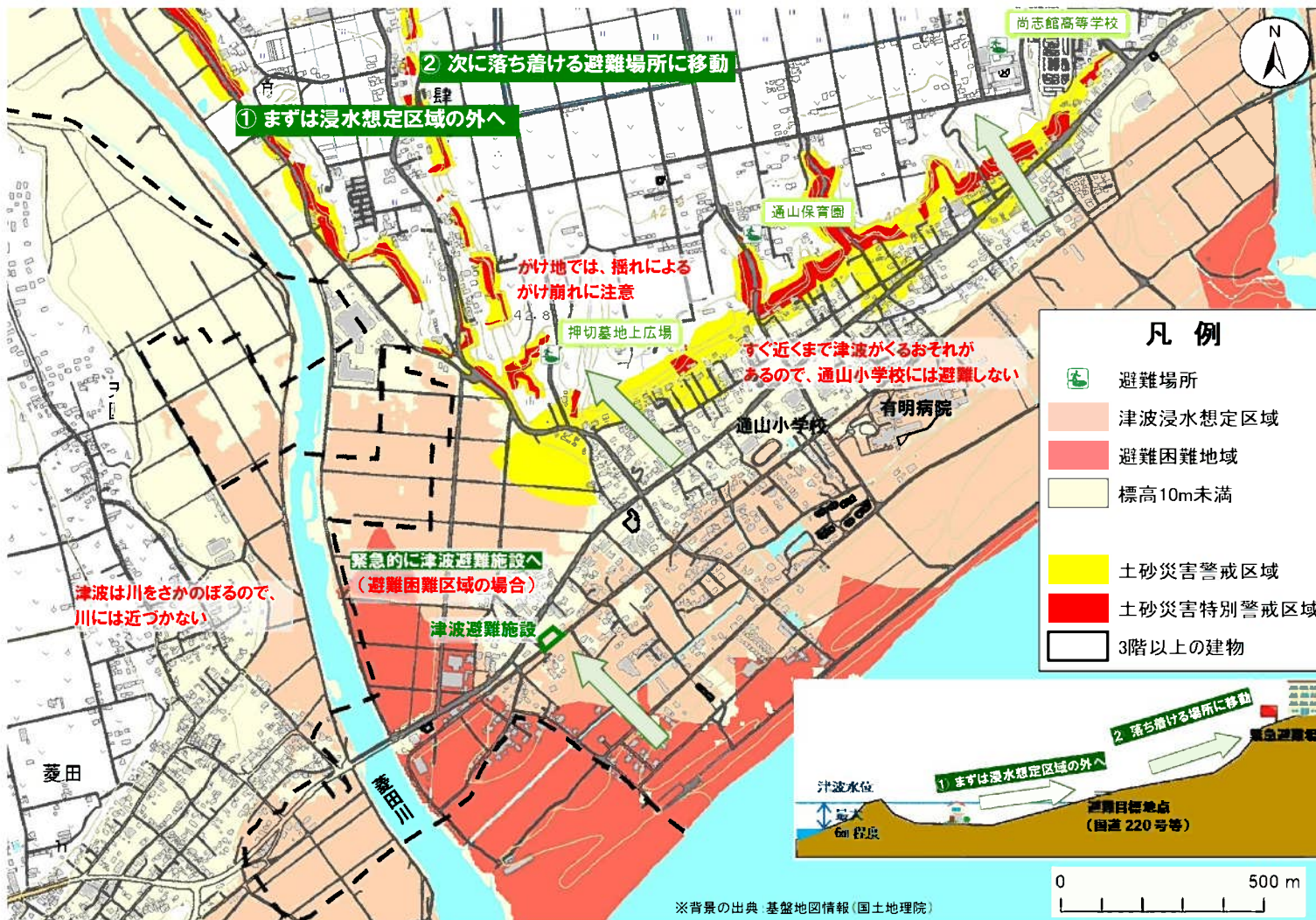


野井倉・蓬原地区 地区別カルテ

野井倉・蓬原地区で津波の危険があるときは・・・

【大きな揺れを感じたり、津波警報などを聞いたら、すぐに安全な場所に避難しましょう】

- ・南海トラフの巨大地震から約35分で津波が到達すると想定されています。浸水想定区域内にいる人は急いで避難しましょう。
- ・避難は、浸水想定区域外に出ることが基本です。その後、通山保育園などの、標高が高く安全で落ち着ける避難場所まで移動しましょう。
- ・避難距離が500m以上となる避難困難地域などで、安全な高台への避難が間に合わない場合、津波避難施設に緊急避難しましょう。
- ・浸水想定区域でなくても、想定外の津波が来るかもしれません。標高の低いところにいる人も、念のため高台へ避難しましょう。
- ・土砂災害(特別)警戒区域を通る場合は、地震によるがけ崩れなどに注意が必要です。通行できない場合は別ルートから避難しましょう。
- ・揺れにより橋が通行できなくなったり、津波が川を逆流するおそれがあります。川は渡らないようにしましょう。



人口

人口	約5,600人
うち浸水想定区域内	約800人
うち避難困難地域内	約90人

主な3階以上の建物

メゾンデュHMST、シーサイド志布志、ひろの樹

※3階建て以上であっても津波によって流されてしまうかもしれません。津波避難の基本は、一刻も早く高台に逃げることです。

浸水深と到達時間

浸水深	最大2.4m	到達時間	約35分
-----	--------	------	------

浸水深が2m以上になると半数以上の建物が全壊・流出し、屋外にいる人はほとんど死亡するとされています。



避難先

まずは浸水想定区域外を目指し、その後、緊急避難場所に向かいます。

緊急避難場所	収容人数
尚志館高等学校 (標高42m)	1,000人
通山保育園 (標高40m)	300人
押切墓地上広場 (標高27m)	—
津波避難施設 (標高5m)	100人

津波のイメージ



標高： 標高2m程度の地域が広くみられる

海側の砂丘では標高が最大7m程度ですが、標高2～3m程度と低い地域が広くみられます。



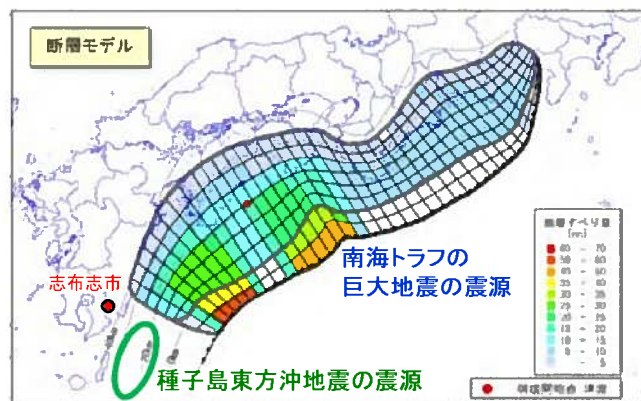
※出典 基盤地図情報 (DEM) (国土地理院)

想定地震： 南海トラフの地震等が想定される

宮崎県沖から静岡県沖の太平洋にある「南海トラフ」で約1,000kmにわたり断層がずれると、大規模な津波が発生すると想定されています。

市では、この「南海トラフの巨大地震」を踏まえた防災対策を検討しています。

また、「種子島東方沖地震」が発生すると、津波高さは「南海トラフの巨大地震」に比べて低いものの、津波到達時間が早く、揺れによる建物被害が大きいと、津波からの逃げ遅れに注意が必要です。



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

過去の地震： 100～150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震等により津波が発生

志布志市内で具体的な津波による被害の記録はありませんが、100～150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震や1662年の日向灘の地震で津波被害が生じた可能性があります。

地震名	被害の概要
慶長地震 (1605年, M7.9)	関東から南九州までの太平洋側に10～20mの津波が来襲
日向灘の地震 (1662年, M7.6)	大隅地方で、津波(津波高さ2～3m)、山崩れにより死者多数との記録あり
宝永地震 (1707年, M8.6)	関東から九州までの太平洋側に10～20mの津波が来襲 (死者多数)
安政南海地震 (1854年, M8.4)	中部から九州までの太平洋側に最大30mの津波が来襲 (死者多数) この地震の32時間前に安政東海地震 (M8.4)、2日後に豊予海峡地震 (M7.4) が発生
昭和南海地震 (1946年, M8.0)	志布志市周辺の津波高さは1.5m、津波到達時間は40分 この地震の2年前に昭和東南海地震 (M7.9) が発生
チリ地震 (1960年, M9.5)	志布志市周辺の津波高さは2.0m程度
チリ地震 (2010年, M8.8)	志布志市周辺の津波高さは1.1m程度

※黄色の地震：南海トラフの地震

※出典 理科年表、気象庁ホームページ

地震の発生確率： 地区内で最大2.4mの浸水が想定

「南海トラフの巨大地震」の発生確率は今後30年で数%とされていますが、それよりも規模が小さい「南海トラフの地震」の発生確率は今後30年で70～80%となっています。

地震名称	規模	津波高	震度	30年発生確率
南海トラフの巨大地震	M9.1	6.4m	5強	南海トラフの地震より1桁程度低い
南海トラフの地震	M8.0	—	5強	70～80%
種子島東方沖地震	M8.1	3.8m	6弱	不明

※津波高は、海岸における津波の高さで、内陸部の浸水深とは異なります。

※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料

津波： 概ね国道220号以南が浸水

住宅地内でも最大2.4mの浸水が想定されています。



揺れ： 南海トラフの巨大地震で「震度5強」が想定

揺れにより、建物が被害を受けなくても、家具などが転倒し、その下敷きになり避難が遅れるおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・家具の固定

また、ブロック塀などが倒れ、歩行者にケガをさせたり、避難路をふさいでしまうおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・ブロック塀の耐震化

5強

【震度5強】

- 物につかまらないうちを歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が倒れることがある。

【注意】
種子島東方沖地震が発生した場合、より強い震度6弱の揺れが想定されています。

※出典 地震調査研究推進本部資料、気象庁HP

液状化： 液状化の危険性が高い

液状化により、土砂が噴出・浸水が発生し、周辺の道路が通行不能になるおそれがあるほか、建物が傾き、屋外に出られなくなるおそれがあります。

液状化が発生すると



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

安楽地区 地区別カルテ

安楽地区で津波の危険があるときは・・・

【大きな揺れを感じたり、津波警報などを聞いたら、すぐに安全な場所に避難しましょう】

- ・南海トラフの巨大地震から約35分で津波が到達すると想定されています。浸水想定区域内にいる人は急いで避難しましょう。
- ・避難は、浸水想定区域外に出ることが基本です。その後、安楽地区公民館などの、標高が高く安全で落ち着ける避難場所まで移動しましょう。
- ・最寄の避難所が1.5km程度離れていつ地域がありますので、移動する際は、高齢者や障がい者等への支援が重要です。
- ・浸水想定区域でなくても、想定外の津波が来るかもしれません。標高の低いところにいる人も、念のため高台へ避難しましょう。
- ・土砂災害(特別)警戒区域を通る場合は、地震によるがけ崩れなどに注意が必要です。通行できない場合は別ルートから避難しましょう。
- ・揺れにより橋が通行できなくなったり、津波が川を逆流するおそれがあります。川は渡らないようにしましょう。

人口

人口	約5,800人
うち浸水想定区域内	約600人
うち避難困難地域内	—

主な3階以上の建物

志布志高等学校、香月小学校

※3階建て以上であっても津波によって流されてしまうかもしれません。津波避難の基本は、一刻も早く高台に逃げることです。

浸水深と到達時間

浸水深	最大2.1m	到達時間	約35分
-----	--------	------	------

浸水深が2m以上になると半数以上の建物が全壊・流出し、屋外にいる人はほとんど死亡するとされています。

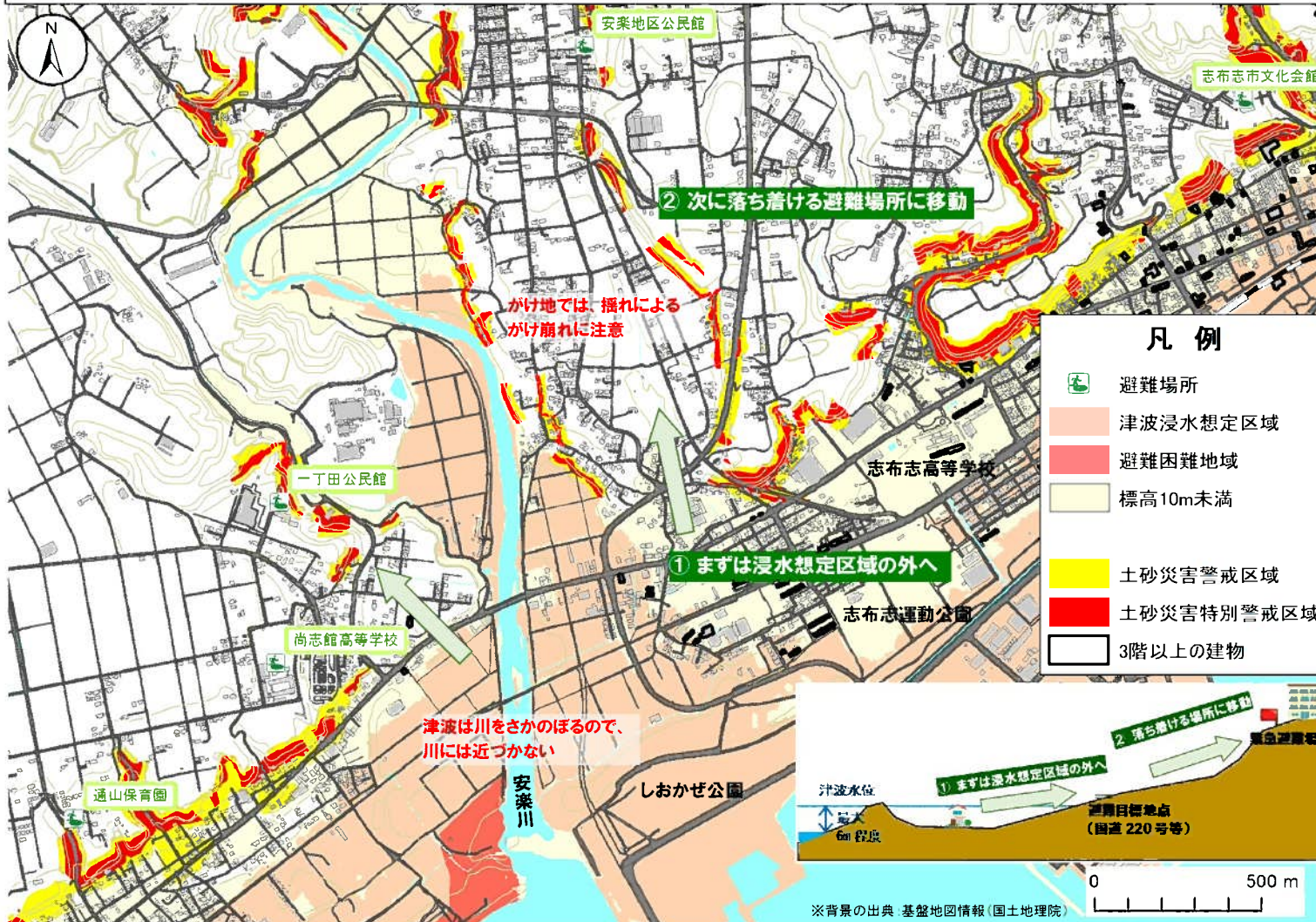


避難先

まずは浸水想定区域外を目指し、その後、緊急避難場所に向かいます。

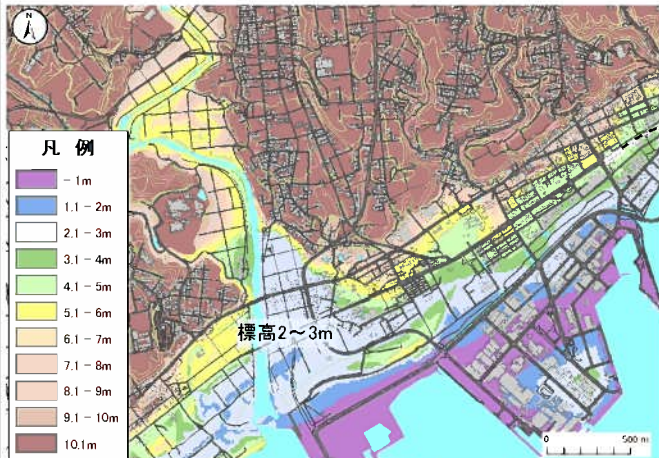
緊急避難場所	収容人数
尚志館高等学校 (標高42m)	1,000人
一丁田公民館 (標高37m)	30人
安楽地区公民館 (標高30m)	100人
志布志文化会館 (標高56m)	500人

津波のイメージ



標高： 標高2m程度の地域が広くみられる

標高2～3m程度と低い地域が広くみられます。



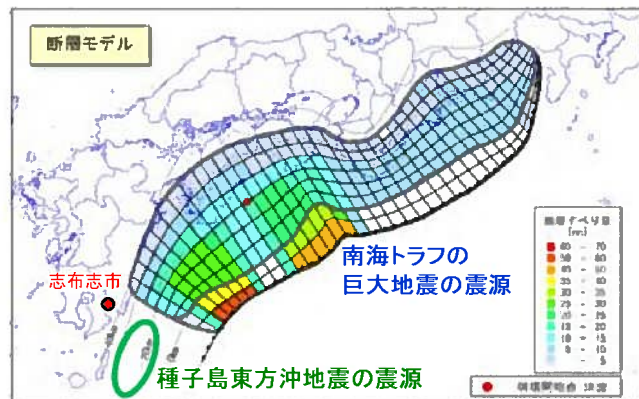
※出典 基盤地図情報 (DEM) (国土地理院)

想定地震： 南海トラフの地震等が想定される

宮崎県沖から静岡県沖の太平洋にある「南海トラフ」で約1,000kmにわたり断層がずれると、大規模な津波が発生すると想定されています。

市では、この「南海トラフの巨大地震」を踏まえた防災対策を検討しています。

また、「種子島東方沖地震」が発生すると、津波高さは「南海トラフの巨大地震」に比べて低いものの、津波到達時間が早く、揺れによる建物被害が大きいので、津波からの逃げ遅れに注意が必要です。



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

過去の地震： 100～150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震等により津波が発生

志布志市内で具体的な津波による被害の記録はありませんが、100～150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震や1662年の日向灘の地震で津波被害が生じた可能性があります。

地震名	被害の概要
慶長地震 (1605年, M7.9)	関東から南九州までの太平洋側に10～20mの津波が来襲
日向灘の地震 (1662年, M7.6)	大隅地方で、津波(津波高さ2～3m)、山崩れにより死者多数との記録あり
宝永地震 (1707年, M8.6)	関東から九州までの太平洋側に10～20mの津波が来襲 (死者多数)
安政南海地震 (1854年, M8.4)	中部から九州までの太平洋側に最大30mの津波が来襲 (死者多数) この地震の32時間前に安政東海地震 (M8.4)、2日後に豊予海峡地震 (M7.4) が発生
昭和南海地震 (1946年, M8.0)	志布志市周辺の津波高さは1.5m、津波到達時間は40分 この地震の2年前に昭和東南海地震 (M7.9) が発生
チリ地震 (1960年, M9.5)	志布志市周辺の津波高さは2.0m程度
チリ地震 (2010年, M8.8)	志布志市周辺の津波高さは1.1m程度

※黄色の地震: 南海トラフの地震

※出典 理科年表、気象庁ホームページ

地震の発生確率： 地区内で最大2.4mの浸水が想定

「南海トラフの巨大地震」の発生確率は今後30年で数%とされていますが、それよりも規模が小さい「南海トラフの地震」の発生確率は今後30年で70～80%となっています。

地震名称	規模	津波高	震度	30年発生確率
南海トラフの巨大地震	M9.1	6.4m	5強	南海トラフの地震より1桁程度低い
南海トラフの地震	M8.0	—	5強	70～80%
種子島東方沖地震	M8.1	3.8m	6弱	不明

※津波高は、海岸における津波の高さで、内陸部の浸水深とは異なります。

※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料

津波： 安楽川沿いを中心に浸水

住宅地内でも最大2.1mの浸水が想定されています。



揺れ： 南海トラフの巨大地震で「震度5強」が想定

揺れにより、建物が被害を受けなくても、家具などが転倒し、その下敷きになり避難が遅れるおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・家具の固定

また、ブロック塀などが倒れ、歩行者にケガをさせたり、避難路をふさいでしまうおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・ブロック塀の耐震化

5強

【震度5強】

- 物につかまらないうちを歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が倒れることがある。

【注意】
種子島東方沖地震が発生した場合、より強い震度6弱の揺れが想定されています。

※出典 地震調査研究推進本部資料、気象庁HP

液状化： 液状化の危険性が高い

液状化により、土砂が噴出・浸水が発生し、周辺の道路が通行不能になるおそれがあるほか、建物が傾き、屋外に出られなくなるおそれがあります。

液状化が発生すると



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

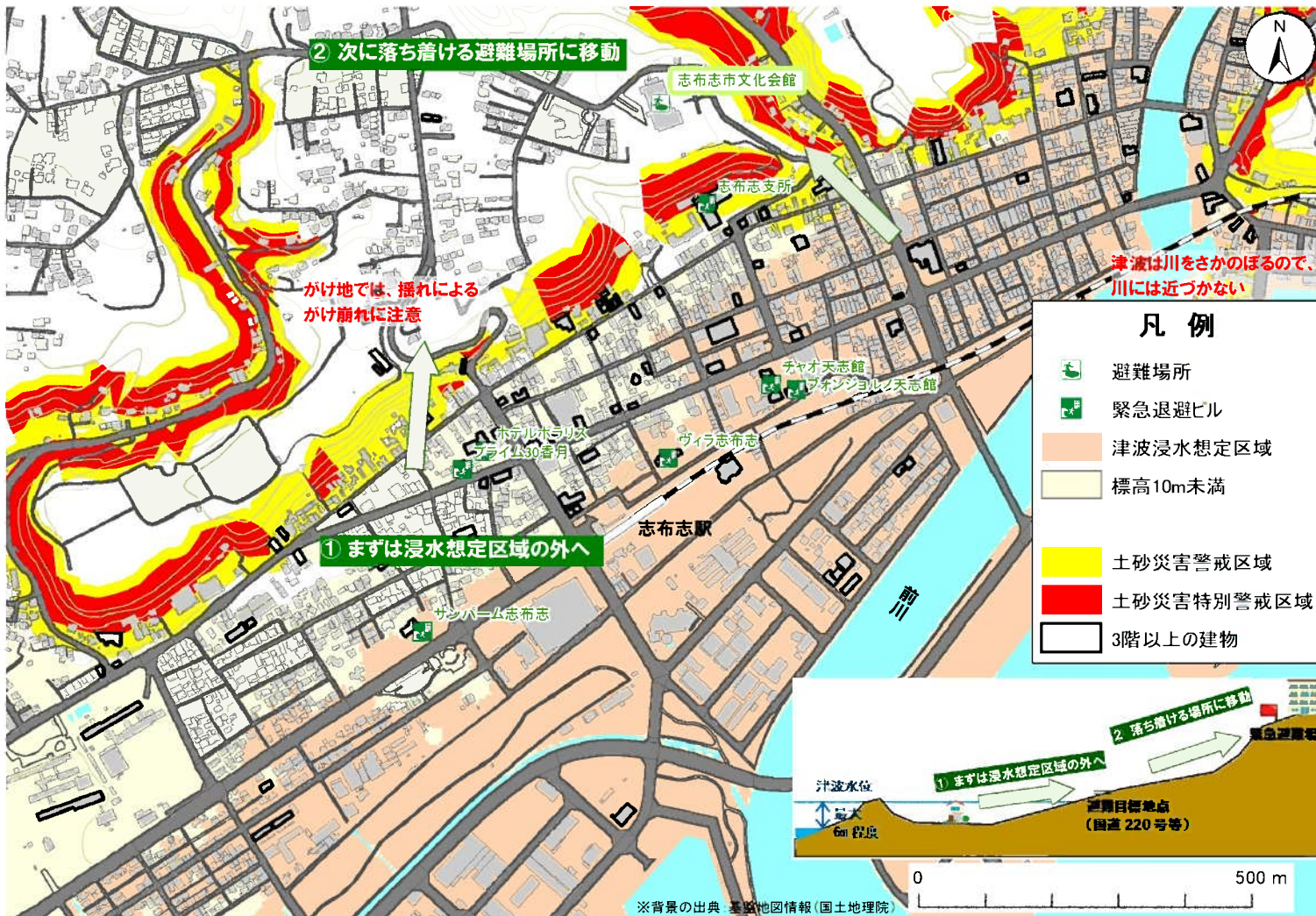
※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料

志布志地区 地区別カルテ

志布志地区で津波の危険があるときは・・・

【大きな揺れを感じたり、津波警報などを聞いたら、すぐに安全な場所に避難しましょう】

- ・南海トラフの巨大地震から約35分で津波が到達すると想定されています。浸水想定区域内にいる人は急いで避難しましょう。
- ・避難は、浸水想定区域外に出ることが基本です。その後、志布志市文化会館などの、標高が高く安全で落ち着ける避難場所まで移動しましょう。
- ・高台までの避難が難しい、間に合わないなど緊急の場合は、志布志支所などの緊急避難ビル(津波避難ビル)に避難してください。
- ・浸水想定区域でなくても、想定外の津波が来るかもしれません。標高の低いところにいる人も、念のため高台へ避難しましょう。
- ・土砂災害(特別)警戒区域を通る場合は、地震によるがけ崩れなどに注意が必要です。通行できない場合は別ルートから避難しましょう。
- ・揺れにより橋が通行できなくなったり、津波が川を逆流するおそれがあります。川は渡らないようにしましょう。



人口

人口	約5,500人
うち浸水想定区域内	約1,900人
うち避難困難地域内	—

主な3階以上の建物

志布志支所

※3階建て以上であっても津波によって流されてしまうかもしれません。津波避難の基本は、一刻も早く高台に逃げることです。

浸水深と到達時間

浸水深	最大2.9m	到達時間	約35分
-----	--------	------	------

浸水深が2m以上になると半数以上の建物が全壊・流出し、屋外にいる人はほとんど死亡するとされています。



避難先

まずは浸水想定区域外を目指し、その後、緊急避難場所に向かいます。

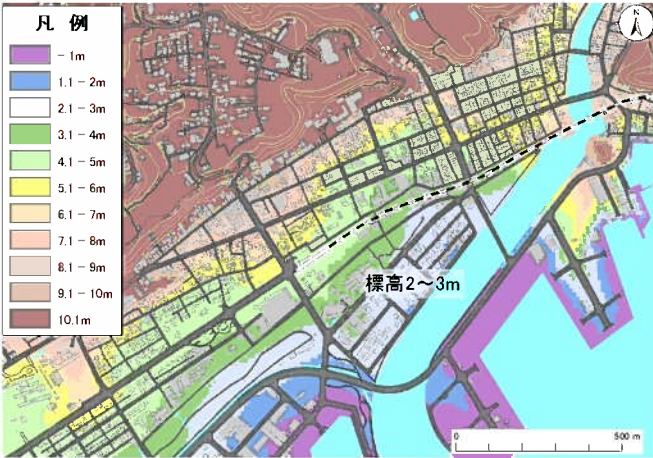
緊急避難場所	収容人数
志布志文化会館 (標高56m)	500人

津波のイメージ



標高： 海に近い地域では標高2m程度となっている

志布志駅は標高4m程度、志布志支所は標高10m程度となっています。



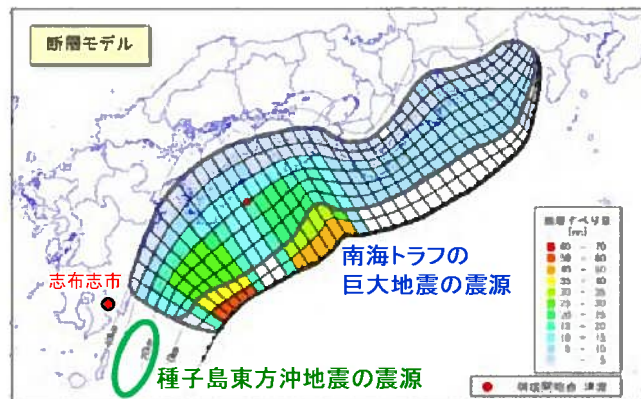
※出典 基盤地図情報 (DEM) (国土地理院)

想定地震： 南海トラフの地震等が想定される

宮崎県沖から静岡県沖の太平洋にある「南海トラフ」で約1,000kmにわたり断層がずれると、大規模な津波が発生すると想定されています。

市では、この「南海トラフの巨大地震」を踏まえた防災対策を検討しています。

また、「種子島東方沖地震」が発生すると、津波高さは「南海トラフの巨大地震」に比べて低いものの、津波到達時間が早く、揺れによる建物被害が大きいと、津波からの逃げ遅れに注意が必要です。



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

過去の地震： 100~150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震等により津波が発生

志布志市内で具体的な津波による被害の記録はありませんが、100~150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震や1662年の日向灘の地震で津波被害が生じた可能性があります。

地震名	被害の概要
慶長地震 (1605年, M7.9)	関東から南九州までの太平洋側に10~20mの津波が来襲
日向灘の地震 (1662年, M7.6)	大隅地方で、津波(津波高さ2~3m)、山崩れにより死者多数との記録あり
宝永地震 (1707年, M8.6)	関東から九州までの太平洋側に10~20mの津波が来襲 (死者多数)
安政南海地震 (1854年, M8.4)	中部から九州までの太平洋側に最大30mの津波が来襲 (死者多数) この地震の32時間前に安政東海地震(M8.4)、2日後に豊予海峡地震(M7.4)が発生
昭和南海地震 (1946年, M8.0)	志布志市周辺の津波高さは1.5m、津波到達時間は40分 この地震の2年前に昭和東南海地震(M7.9)が発生
チリ地震 (1960年, M9.5)	志布志市周辺の津波高さは2.0m程度
チリ地震 (2010年, M8.8)	志布志市周辺の津波高さは1.1m程度

※黄色の地震: 南海トラフの地震

※出典 理科年表、気象庁ホームページ

地震の発生確率： 地区内で最大2.4mの浸水が想定

「南海トラフの巨大地震」の発生確率は今後30年で数%とされていますが、それよりも規模が小さい「南海トラフの地震」の発生確率は今後30年で70~80%となっています。

地震名称	規模	津波高	震度	30年発生確率
南海トラフの巨大地震	M9.1	6.4m	5強	南海トラフの地震より1桁程度低い
南海トラフの地震	M8.0	—	5強	70~80%
種子島東方沖地震	M8.1	3.8m	6弱	不明

※津波高は、海岸における津波の高さで、内陸部の浸水深とは異なります。

※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料

津波： 概ね国道220号以南、前川沿いが浸水

住宅地内でも最大2.9mの浸水が想定されています。



揺れ： 南海トラフの巨大地震で「震度5強」が想定

揺れにより、建物が被害を受けなくても、家具などが転倒し、その下敷きになり避難が遅れるおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・家具の固定

また、ブロック塀などが倒れ、歩行者にケガをさせたり、避難路をふさいでしまうおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・ブロック塀の耐震化

5強

【震度5強】

- 物につかまらないうちを歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

【注意】
種子島東方沖地震が発生した場合、より強い震度6弱の揺れが想定されています。

※出典 地震調査研究推進本部資料、気象庁HP

液状化： 液状化の危険性が高い

液状化により、土砂が噴出・浸水が発生し、周辺の道路が通行不能になるおそれがあるほか、建物が傾き、屋外に出られなくなるおそれがあります。

液状化が発生すると



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料

砦地区 地区別カルテ

砦地区で津波の危険があるときは・・・

【大きな揺れを感じたり、津波警報などを聞いたら、すぐに安全な場所に避難しましょう】

- ・南海トラフの巨大地震から約35分で津波が到達すると想定されています。浸水想定区域内にいる人は急いで避難しましょう。
- ・避難は、浸水想定区域外に出ることが基本です。その後、双葉保育園などの、標高が高く安全で落ち着ける避難場所まで移動しましょう。
- ・浸水想定区域でなくても、想定外の津波が来るかもしれません。標高の低いところにいる人も、念のため高台へ避難しましょう。
- ・土砂災害(特別)警戒区域を通る場合は、地震によるがけ崩れなどに注意が必要です。通行できない場合は別ルートから避難しましょう。
- ・揺れにより橋が通行できなくなったり、津波が川を逆流するおそれがあります。川は渡らないようにしましょう。

人口

人口	約3,800人
うち浸水想定区域内	約300人
うち避難困難地域内	—

主な3階以上の建物

志布志小学校

※3階建て以上であっても津波によって流されてしまうかもしれません。津波避難の基本は、一刻も早く高台に逃げることです。

浸水深と到達時間

浸水深	最大2.3m	到達時間	約35分
-----	--------	------	------

浸水深が2m以上になると半数以上の建物が全壊・流出し、屋外にいる人はほとんど死亡するとされています。

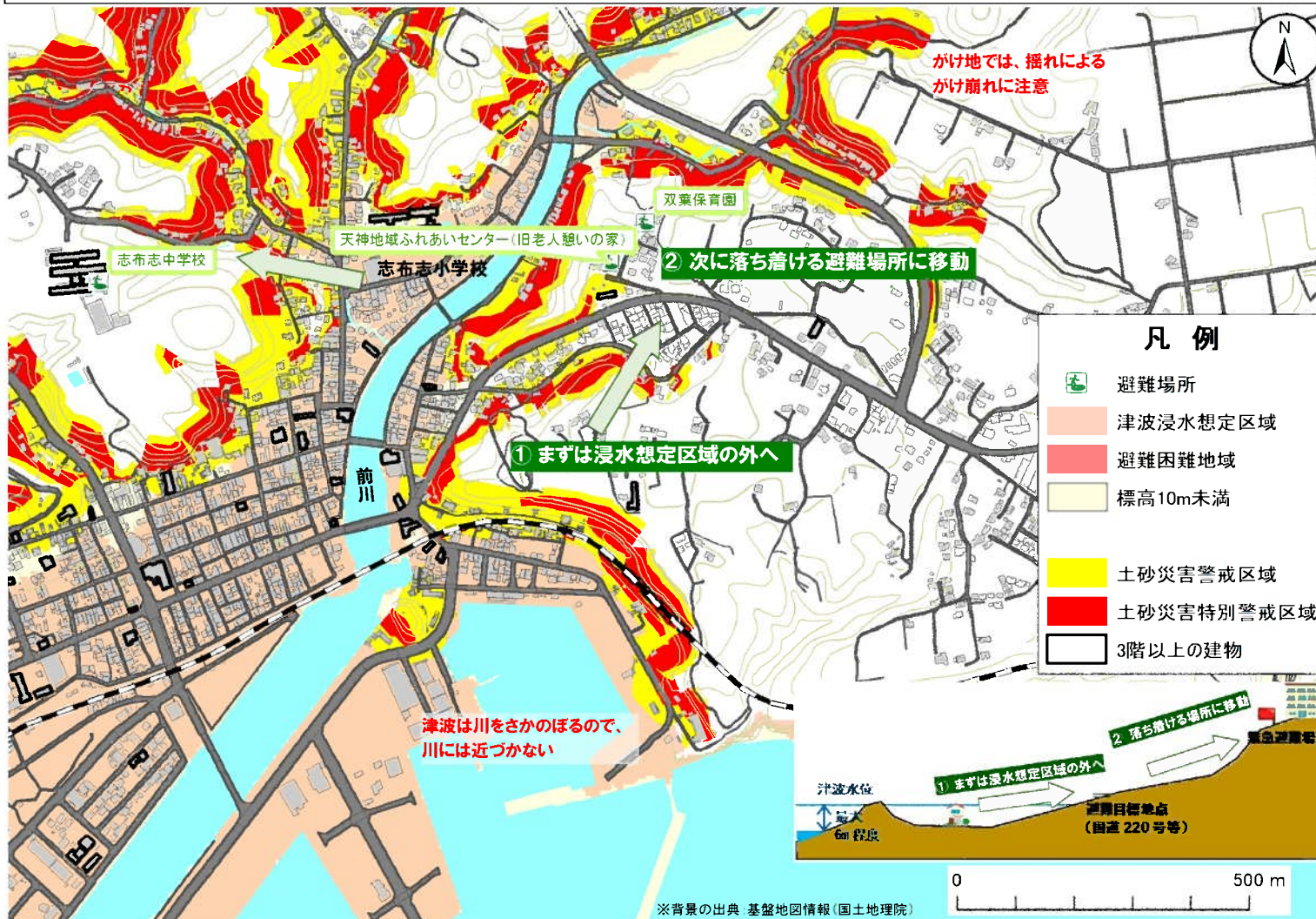


避難先

まずは浸水想定区域外を目指し、その後、緊急避難場所に向かいます。

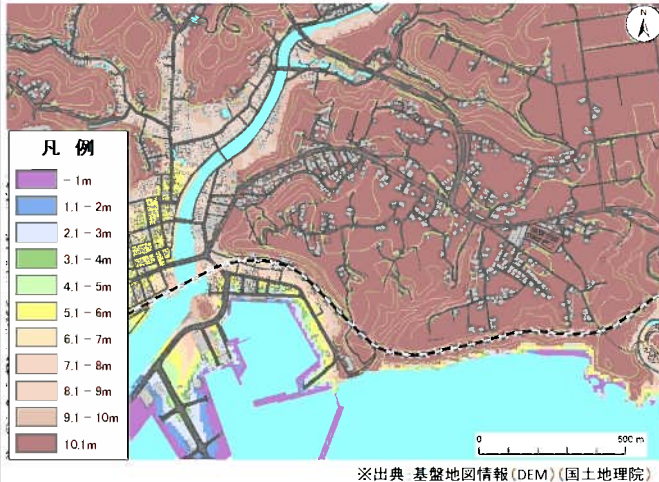
緊急避難場所	収容人数
志布志中学校 (標高44m)	500人
天神地域ふれあいセンター (標高49m)	50人
双葉保育園 (標高46m)	500人

津波のイメージ



標高： 沿岸部や前川沿いの地域で標高が低い

沿岸部や前川沿いで標高5m程度以下の地域がみられます。



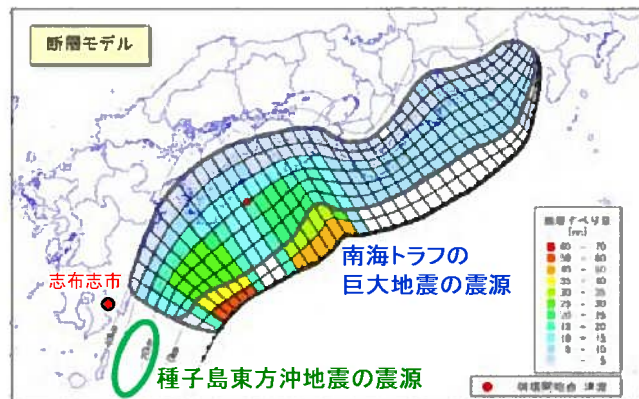
※出典 基盤地図情報 (DEM) (国土地理院)

想定地震： 南海トラフの地震等が想定される

宮崎県沖から静岡県沖の太平洋にある「南海トラフ」で約1,000kmにわたり断層がずれると、大規模な津波が発生すると想定されています。

市では、この「南海トラフの巨大地震」を踏まえた防災対策を検討しています。

また、「種子島東方沖地震」が発生すると、津波高さは「南海トラフの巨大地震」に比べて低いものの、津波到達時間が早く、揺れによる建物被害が大きいと、津波からの逃げ遅れに注意が必要です。



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

過去の地震： 100~150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震等により津波が発生

志布志市内で具体的な津波による被害の記録はありませんが、100~150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震や1662年の日向灘の地震で津波被害が生じた可能性があります。

地震名	被害の概要
慶長地震 (1605年, M7.9)	関東から南九州までの太平洋側に10~20mの津波が来襲
日向灘の地震 (1662年, M7.6)	大隅地方で、津波(津波高さ2~3m)、山崩れにより死者多数との記録あり
宝永地震 (1707年, M8.6)	関東から九州までの太平洋側に10~20mの津波が来襲 (死者多数)
安政南海地震 (1854年, M8.4)	中部から九州までの太平洋側に最大30mの津波が来襲 (死者多数) この地震の32時間前に安政東海地震 (M8.4)、2日後に豊予海峡地震 (M7.4) が発生
昭和南海地震 (1946年, M8.0)	志布志市周辺の津波高さは1.5m、津波到達時間は40分 この地震の2年前に昭和東南海地震 (M7.9) が発生
チリ地震 (1960年, M9.5)	志布志市周辺の津波高さは2.0m程度
チリ地震 (2010年, M8.8)	志布志市周辺の津波高さは1.1m程度

※黄色の地震: 南海トラフの地震

※出典 理科年表、気象庁ホームページ

地震の発生確率： 地区内で最大2.4mの浸水が想定

「南海トラフの巨大地震」の発生確率は今後30年で数%とされていますが、それよりも規模が小さい「南海トラフの地震」の発生確率は今後30年で70~80%となっています。

地震名称	規模	津波高	震度	30年発生確率
南海トラフの巨大地震	M9.1	6.4m	5強	南海トラフの地震より1桁程度低い
南海トラフの地震	M8.0	—	5強	70~80%
種子島東方沖地震	M8.1	3.8m	6弱	不明

※津波高は、海岸における津波の高さで、内陸部の浸水深とは異なります。

※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料

津波： 沿岸部や前川沿いを中心に浸水

住宅地内でも最大2.3mの浸水が想定されています。



揺れ： 南海トラフの巨大地震で「震度5強」が想定

揺れにより、建物が被害を受けなくても、家具などが転倒し、その下敷きになり避難が遅れるおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・家具の固定

また、ブロック塀などが倒れ、歩行者にケガをさせたり、避難路をふさいでしまうおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・ブロック塀の耐震化

5強

【震度5強】

- 物につかまらないうちを歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が倒れることがある。

【注意】
種子島東方沖地震が発生した場合、より強い震度6弱の揺れが想定されています。

※出典 地震調査研究推進本部資料、気象庁HP

液状化： 液状化の危険性が高い

液状化により、土砂が噴出・浸水が発生し、周辺の道路が通行不能になるおそれがあるほか、建物が傾き、屋外に出られなくなるおそれがあります。

液状化が発生すると



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料

夏井地区 地区別カルテ

夏井地区で津波の危険があるときは・・・

【大きな揺れを感じたり、津波警報などを聞いたら、すぐに安全な場所に避難しましょう】

- ・南海トラフの巨大地震から約35分で津波が到達すると想定されています。浸水想定区域内にいる人は急いで避難しましょう。
- ・避難は、浸水想定区域外に出ることが基本です。その後、大山病院などの、標高が高く安全で落ち着ける避難場所まで移動しましょう。
- ・浸水想定区域でなくても、想定外の津波が来るかもしれません。標高の低いところにいる人も、念のため高台へ避難しましょう。
- ・土砂災害(特別)警戒区域を通る場合は、地震によるがけ崩れなどに注意が必要です。通行できない場合は別ルートから避難しましょう。

人口

人口	約300人
うち浸水想定区域内	約100人
うち避難困難地域内	—

主な3階以上の建物

ボルベリアダグリ

※3階建て以上であっても津波によって流されてしまうかもしれません。津波避難の基本は、一刻も早く高台に逃げることです。

浸水深と到達時間

浸水深	最大2.4m	到達時間	約35分
-----	--------	------	------

浸水深が2m以上になると半数以上の建物が全壊・流出し、屋外にいる人はほとんど死亡するとされています。

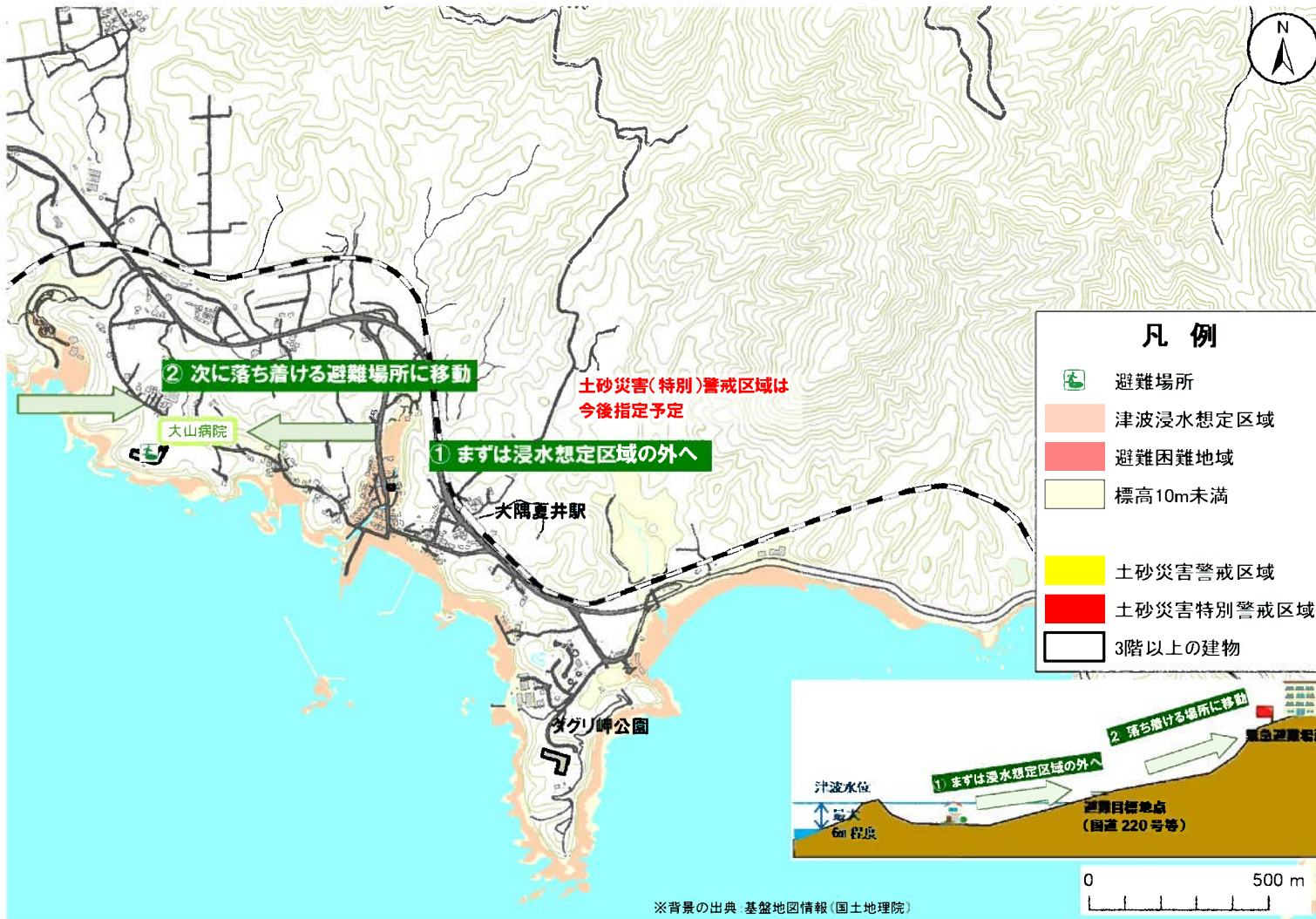


避難先

まずは浸水想定区域外を目指し、その後、緊急避難場所に向かいます。

緊急避難場所	収容人数
大山病院 (標高35m)	100人

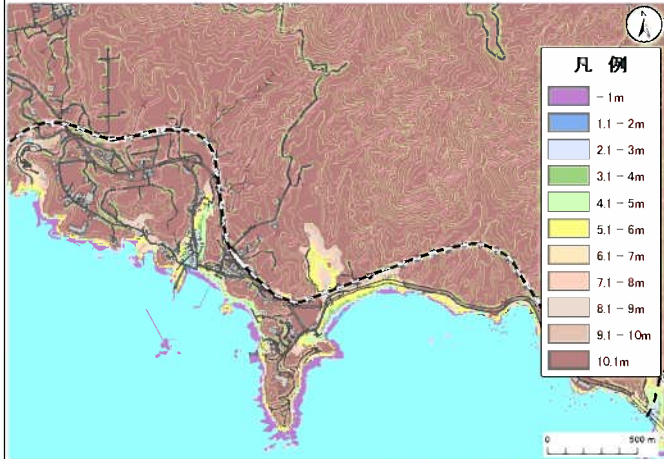
津波のイメージ



※背景の出典：基盤地図情報(国土院)

標高： 沿岸部の川沿いの一部で標高が低い

大隅夏井駅周辺で標高5m程度以下の地域がみられます。



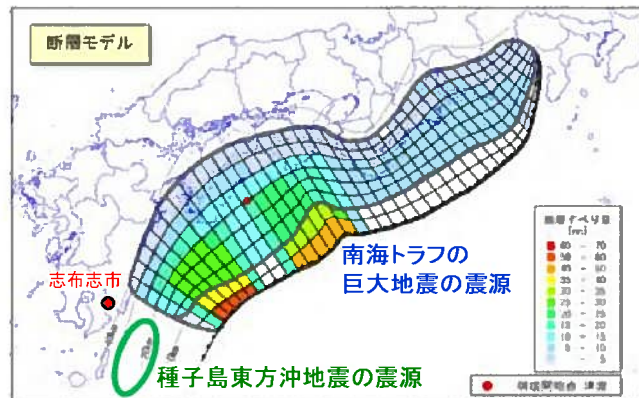
※出典 基盤地図情報 (DEM) (国土地理院)

想定地震： 南海トラフの地震等が想定される

宮崎県沖から静岡県沖の太平洋にある「南海トラフ」で約1,000kmにわたり断層がずれると、大規模な津波が発生すると想定されています。

市では、この「南海トラフの巨大地震」を踏まえた防災対策を検討しています。

また、「種子島東方沖地震」が発生すると、津波高さは「南海トラフの巨大地震」に比べて低いものの、津波到達時間が早く、揺れによる建物被害が大きいと、津波からの逃げ遅れに注意が必要です。



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

過去の地震： 100~150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震等により津波が発生

志布志市内で具体的な津波による被害の記録はありませんが、100~150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震や1662年の日向灘の地震で津波被害が生じた可能性があります。

地震名	被害の概要
慶長地震 (1605年, M7.9)	関東から南九州までの太平洋側に10~20mの津波が来襲
日向灘の地震 (1662年, M7.6)	大隅地方で、津波(津波高さ2~3m)、山崩れにより死者多数との記録あり
宝永地震 (1707年, M8.6)	関東から九州までの太平洋側に10~20mの津波が来襲 (死者多数)
安政南海地震 (1854年, M8.4)	中部から九州までの太平洋側に最大30mの津波が来襲 (死者多数) この地震の32時間前に安政東海地震 (M8.4)、2日後に豊予海峡地震 (M7.4) が発生
昭和南海地震 (1946年, M8.0)	志布志市周辺の津波高さは1.5m、津波到達時間は40分 この地震の2年前に昭和東南海地震 (M7.9) が発生
チリ地震 (1960年, M9.5)	志布志市周辺の津波高さは2.0m程度
チリ地震 (2010年, M8.8)	志布志市周辺の津波高さは1.1m程度

※黄色の地震: 南海トラフの地震

※出典 理科年表、気象庁ホームページ

地震の発生確率： 地区内で最大2.4mの浸水が想定

「南海トラフの巨大地震」の発生確率は今後30年で数%とされていますが、それよりも規模が小さい「南海トラフの地震」の発生確率は今後30年で70~80%となっています。

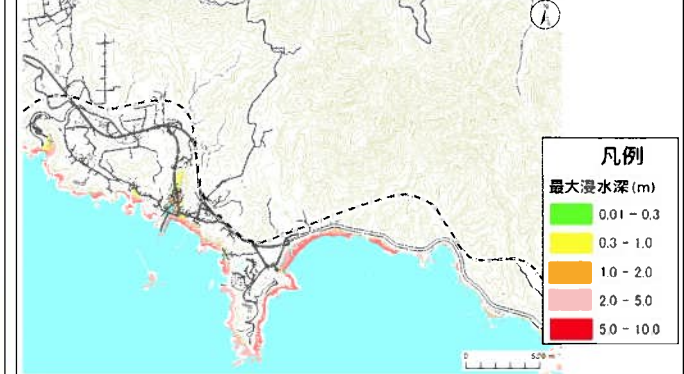
地震名称	規模	津波高	震度	30年発生確率
南海トラフの巨大地震	M9.1	6.4m	5強	南海トラフの地震より1桁程度低い
南海トラフの地震	M8.0	—	5強	70~80%
種子島東方沖地震	M8.1	3.8m	6弱	不明

※津波高は、海岸における津波の高さで、内陸部の浸水深とは異なります。

※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料

津波： 沿岸部や川沿いの一部で浸水

住宅地内でも最大2.4mの浸水が想定されています。



揺れ： 南海トラフの巨大地震で「震度5強」が想定

揺れにより、建物が被害を受けなくても、家具などが転倒し、その下敷きになり避難が遅れるおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・家具の固定

また、ブロック塀などが倒れ、歩行者にケガをさせたり、避難路をふさいでしまうおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・ブロック塀の耐震化

5強

【震度5強】

- 物につかまらないうちを歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

【注意】
種子島東方沖地震が発生した場合、より強い震度6弱の揺れが想定されています。

※出典 地震調査研究推進本部資料、気象庁HP

液状化： 液状化の危険性が高い

液状化により、土砂が噴出・浸水が発生し、周辺の道路が通行不能になるおそれがあるほか、建物が傾き、屋外に出られなくなるおそれがあります。

液状化が発生すると



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料

志布志港 地区別カルテ

志布志港で津波の危険があるときは・・・

【大きな揺れを感じたり、津波警報などを聞いたら、すぐに安全な場所に避難しましょう】

- ・南海トラフの巨大地震から約35分で津波が到達すると想定されています。浸水想定区域内にいる人は急いで避難しましょう。
- ・避難は、浸水想定区域外に出ることが基本です。その後、標高が高く安全で落ち着ける避難場所まで移動しましょう。
- ・避難距離が1,350m以上となる避難困難地域では、新たに整備する津波避難施設への避難が必要です。
- ・土砂災害(特別)警戒区域を通る場合は、地震によるがけ崩れなどに注意が必要です。通行できない場合は別ルートから避難しましょう。
- ・揺れにより橋が通行できなくなったり、津波が川を逆流するおそれがあります。川は渡らないようにしましょう。

人口

就業者数	約1,100人
うち浸水想定区域内	約1,100人
うち避難困難地域内	約250人

主な3階以上の建物

日本農産工業志布志工場

※3階建て以上であっても津波によって流されてしまうかもしれません。津波避難の基本は、一刻も早く高台に逃げることです。

浸水深と到達時間

浸水深	最大4.7m	到達時間	約35分
-----	--------	------	------

浸水深が2m以上になると半数以上の建物が全壊・流出し、屋外にいる人はほとんど死亡するとされています。

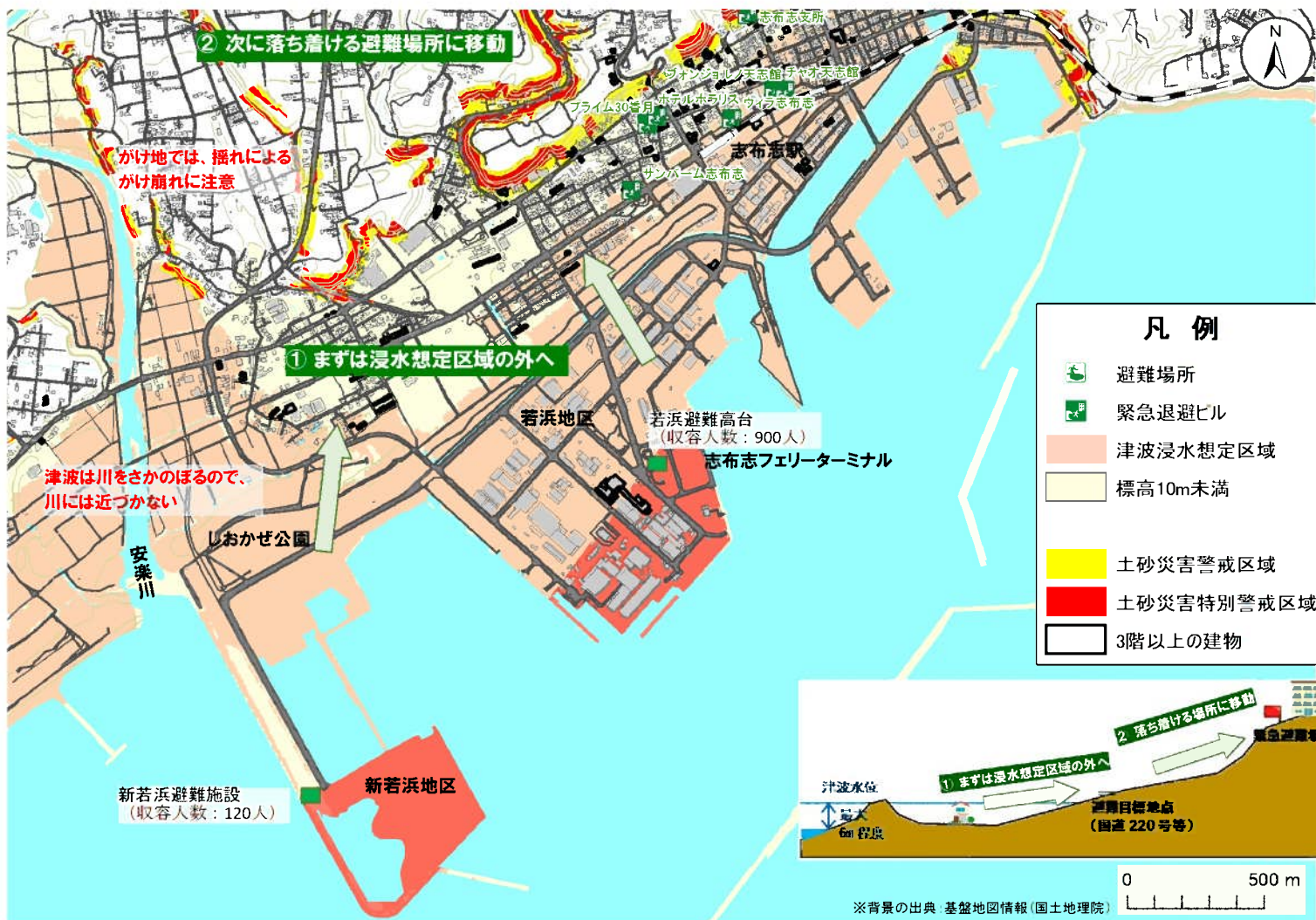


避難先

まずは浸水想定区域外を目指し、その後、緊急避難場所に向かいます。

緊急避難場所	収容人数

津波のイメージ



2 次に落ち着ける避難場所へ移動

がけ地では、揺れによる
がけ崩れに注意

1 まずは浸水想定区域の外へ

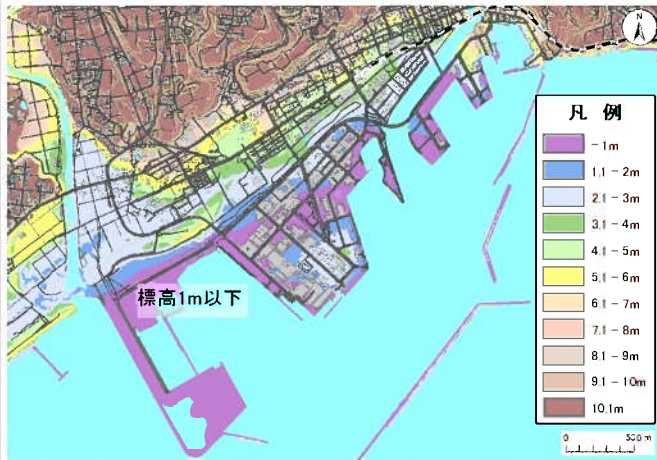
津波は川をさかのぼるので、
川には近づかない

新若浜避難施設
(収容人数：120人)

若浜避難高台
(収容人数：900人)

標高： 標高1m以下の地域が広くみられる

志布志港は標高1mよりも低い地域が広くみられます。



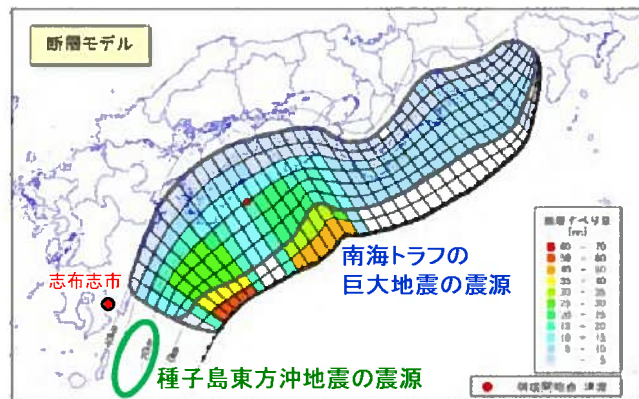
※出典 基盤地図情報 (DEM) (国土地理院)

想定地震： 南海トラフの地震等が想定される

宮崎県沖から静岡県沖の太平洋にある「南海トラフ」で約1,000kmにわたり断層がずれると、大規模な津波が発生すると想定されています。

市では、この「南海トラフの巨大地震」を踏まえた防災対策を検討しています。

また、「種子島東方沖地震」が発生すると、津波高さは「南海トラフの巨大地震」に比べて低いものの、津波到達時間が早く、揺れによる建物被害が大きいと、津波からの逃げ遅れに注意が必要です。



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

過去の地震： 100~150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震等により津波が発生

志布志市内で具体的な津波による被害の記録はありませんが、100~150年間隔で発生するとされる南海トラフの地震や1662年の日向灘の地震で津波被害が生じた可能性があります。

地震名	被害の概要
慶長地震 (1605年, M7.9)	関東から南九州までの太平洋側に10~20mの津波が来襲
日向灘の地震 (1662年, M7.6)	大隅地方で、津波(津波高さ2~3m)、山崩れにより死者多数との記録あり
宝永地震 (1707年, M8.6)	関東から九州までの太平洋側に10~20mの津波が来襲 (死者多数)
安政南海地震 (1854年, M8.4)	中部から九州までの太平洋側に最大30mの津波が来襲 (死者多数) この地震の32時間前に安政東海地震 (M8.4)、2日後に豊予海峡地震 (M7.4) が発生
昭和南海地震 (1946年, M8.0)	志布志市周辺の津波高さは1.5m、津波到達時間は40分 この地震の2年前に昭和東南海地震 (M7.9) が発生
チリ地震 (1960年, M9.5)	志布志市周辺の津波高さは2.0m程度
チリ地震 (2010年, M8.8)	志布志市周辺の津波高さは1.1m程度

※黄色の地震: 南海トラフの地震

※出典 理科年表、気象庁ホームページ

地震の発生確率： 地区内で最大2.4mの浸水が想定

「南海トラフの巨大地震」の発生確率は今後30年で数%とされていますが、それよりも規模が小さい「南海トラフの地震」の発生確率は今後30年で70~80%となっています。

地震名称	規模	津波高	震度	30年発生確率
南海トラフの巨大地震	M9.1	6.4m	5強	南海トラフの地震より1桁程度低い
南海トラフの地震	M8.0	—	5強	70~80%
種子島東方沖地震	M8.1	3.8m	6弱	不明

※津波高は、海岸における津波の高さで、内陸部の浸水深とは異なります。

※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料

津波： 志布志港の全域で浸水

志布志港の全域で浸水が想定されています。



揺れ： 南海トラフの巨大地震で「震度5強」が想定

揺れにより、建物が被害を受けなくても、家具などが転倒し、その下敷きになり避難が遅れるおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・家具の固定

また、ブロック塀などが倒れ、歩行者にケガをさせたり、避難路をふさいでしまうおそれがあります。

⇒【必要な対策例】
・ブロック塀の耐震化

5強

【震度5強】

- 物につかまらないうちを歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

【注意】
種子島東方沖地震が発生した場合、より強い震度6弱の揺れが想定されています。

※出典 地震調査研究推進本部資料、気象庁HP

液状化： 液状化の危険性が高い

液状化により、土砂が噴出・浸水が発生し、周辺の道路が通行不能になるおそれがあるほか、建物が傾き、屋外に出られなくなるおそれがあります。

液状化が発生すると



※出典 「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)」(内閣府) 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」

※出典 「鹿児島県地震等災害被害予測調査」、地震調査研究推進本部資料